

学び続ける生徒の育成を目的とした授業 変革とICT活用

公立

共学

群馬県・伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

学科：普通科

規模：1学年約120名(2014年度)

主な進路状況：群馬大、千葉大、東京外国語大など国公立大38名、上智大、中央大、東京理科大など私立大226名(2015年度入試)

- ＞ 取り組み
- 生徒の知的好奇心を高める授業とICTの活用
 - 生徒同士の学び合いなど学習効果を高める朝学習の実施

学び続ける生徒を育成するための 授業実践

————— 貴校では「四ツ葉の学び」として「興味関心を高めるための学び」、「思考力を育成するための学び」、「表現力を育成するための学び」の3つを柱に掲げていますが、背景について教えてください

飯塚先生 1期生は中等教育学校の前期3年間で、主体的に考え、活動し、発表する体験を授業で積み重ねてきました。それが、高校でいきなり講義中心の授業になってしまうのでは、生徒を混乱させてしまいます。「学び続ける生徒の育成」という目標を実現するためにも、3つの学びを掲げ、先生方の共通理解を図る必要がありました。

————— 「興味関心を高めるための学び」について教えてください

飯塚先生 生徒の知的好奇心を高めるために、多角的なもの見方、多様な考え方に気付かせることが重要と考えています。例えば、現代社会の「社会保障」について学ぶ授業では、

まず教師が「日本は豊かな国か」という問いかけを行い、授業を始めます。その後、年間3万人前後で推移するグラフを示し、何を表すグラフかをグループで考えさせます。しばらくして、日本の自殺者数の推移であることを明かします。その後、高齢者ほど自殺者数が多いことを示し、社会保障の仕組みや課題について深く学んでいきます。「なぜ、そうなっているのか」という課題意識を持たせて授業に入らないと、生徒は何のために学ぶのかが分からず、やらされた感だけが残ります。もはや、大学入試という目標だけで、生徒の学習意欲を引き上げるのは難しくなっています。教育の王道に立ち返り、教科の魅力や面白さを伝えることが、生徒の主体的な学びを促すには必須だと感じています。





生徒の授業への関心を高めるためにICTを活用されているとお聞きしています

飯塚先生 Classiを活用して、生徒に授業アンケートをとっています。毎授業後、授業で学んだことや教師への質問などをClassiに入力してもらい、その内容を一覧にして「現社通信」として生徒に配付しています。紙でのアンケートでは、配付用として回答結果をまとめるのに時間が掛りますが、ICTを活用すれば、容易に回答結果の一覧が作成でき、生徒の考えも迅速に学級内で共有できます。生徒は書き込みながら授業を振り返ることになるので、学習内容の定着にもつながりますし、教師は生徒たちの書き込み内容から1人ひとりの理解度を確認できます。

また、生徒同士で気づきを共有し、互いに刺激し合うことで、「自分ももっと書けるようになりたい」など学習意欲の向上につながることも狙いとしています。質問も共有できるので、生徒の疑問から授業をスタートさせるなど、授業の進め方にも生かしています。



4-1・現社通信

> 需給曲線の問題をつくってみよう

- ここ最近サントリーの飲料が人気である。そのため、生産が追いつかない状況にあり、販売することができない。どうにすれば、販売することができるのでしょうか？
A：需要量を増やせ、価格を上げろ。生産量(供給量)を増やせ。
- ある商品が売れる割合が見込んだ売れ筋を上げを上回った場合、この商品の価格はどのように変化するか。
ある食品に異物が混入していたことが分かった場合、この商品の価格はどのように変化するか。
- トマトが健康に良いという話が話題になり、スーパーなどにトマトを買いに来る人が増加した。この場合トマトの価格はどのように変化するか。
A：需要量が増え、価格が上がる。
- 連日の雨天により全国的にマツタケが豊作となった。価格はどのように変化するか。
A：価格は下がる（供給が増えるため）。
- ある食品が健康に良いとニュースに取り上げられた。
A：需要曲線が右に並行に動く。
悪天候で、マグロの出荷量が減った。
A：供給曲線が左に並行に動く。
- あるメーカーのスパイクを有名サッカー選手がテレビ中継された試合ではいた。この場合、今後のスパイクの売れ上げ価格はどうか？
A：売れ上げは多くなり需要量が増え、価格も上がる。
- ある車に事故につながる欠陥が見つかった。
A：需要量の数量が減少し、価格は下がる。
ある商品が予想以上に売れたため、生産が追いつかず三日後に販売停止になることが決まった。
A：供給量の数量、価格が上がる。生産量(供給量)を増やせ。

- 地震の影響でガソリンスタンドまで①ガソリンが届かなくなり少なくなってしまうため②多くの人が数少ないガソリンを求めてガソリンスタンドに行きました。ガソリンの価格はどのように変化しますか？
A：①供給が少なくなって、供給のグラフ曲線が右に左に平行移動するので価格が上がる。
②需要量が増加し(需要曲線が右に平行移動)一価格上昇
- 冬服の売り尽くし
A：必要とする人が減り、供給価格が下がる。
- ある商品に雑物異物混入がされていたことがあった。この場合価格はどのように変化するのか？
A：その商品を買う人が減り、価格が下がる。
- 今年は極端に雨が多く、また温暖な気候の年でした。そのため今年には良質な米が大量に収穫されました。需要供給曲線はどのように動くか。
A：供給曲線右に平行移動しが増え価格は下がる。
- とある食品工場で異物混入の事件が発覚した。連日、テレビなどで報道され、消費者への事件のあった食品会社への不安が高まった。この影響による食品会社の商品の価格は上がりますか、下がりますか。理由も含めて答えなさい。
A：下がる。消費者の食品会社への信頼は下がり供給量は変わらず需要が減ってしまうから。
- 食品を扱う店では安全面が第一優先されます。そのことを意識して次の問題に答えなさい。ハンバーガーショップでの出来事です。Aくんはフライドポテトを注文しました。食べているとAくんはそのフライドポテトに毒が入っていることに気づきすぐにSNSサイトに投稿しました。この問題が世界中に広がりそのハンバーガーショップの評判が落ちた場合その店の品物の価格はどうなりますか？
A：買う側が少なくなるので価格は下がる。
- ある店で期間限定のお菓子が発売され、大人気である。しかし、売れすぎたので販売を一時的に停止することを会社が発表した。この商品の価格はこれからどうなるか。
A：需要量が増え、供給量を上回るので、価格は上がる。

▲ 授業アンケートをまとめた「現社通信」。実際に生徒に需要と供給の問題を作成させ、共有している。





——— 思考力を高める取り組みについても教えてください

飯塚先生 定期考査では、単に知識・技能を問うだけでなく、授業で学んだ知識・技能を活用して答える問題を出題しています。15年度の現代社会の1学期期末考査では、コンプライアンスやガバナンスの観点から社外取締役が必要とされているという新聞記事を例示し、外部出身者を取締役にする目的を説明させる論述問題を出題しています。社外取締役については、授業で取り上げていませんが、初見の新聞記事の内容と、既に学習した知識を合わせて考えることを通して、思考力を鍛えるのが狙いです。

——— 合教科・科目の学校設定科目で教科書内容の理解を深める取り組みをされているとお聞きしています。

飯塚先生 英語の授業では、生徒が英語を使う必然性や話したいという意欲を喚起することを重視しています。中学段階から、コミュニケーションな活動を多用すると共に、教科書の内容そのものを掘り下げ、テーマに対する関心を深めています。この取組みを効果的に進めるために、本校では英語と公民・理科を合同で行う合教科・科目型の学校設定科目として、5年生文系型の「現代社会と英語Ⅰ」、6年生文系型の「現代社会と英語Ⅱ」、5年生理系型の「現代科学と英語」を設けています。文型は世界史や政治・経済などとの選択履修にし、理系は必修としています。理系でこの科目を必修にしたのは、理系志望者には高校在学中から科学英語に親しんでおくことが重要だと考えたからです。これらの学校設定科目の授業は、英語科と地歴・公民科、理科（物理・化学・生物）のチーム・ティーチングで進めて行きます。

——— 主体性・協働性を高める取り組みについても教えてください

飯塚先生 生徒の主体的・協働的な学習態度の育成と社会的な視野の拡大を図るために、5・6年生の総合学習では、「ソーシャル・ビジネスを立ち上げよう」をテーマとしています。本校では5年生1学期にアメリカ・ミズーリ州立大で11日間の研修を実施しています。研修において、社会的・グローバルな課題について視野を広げたことを受け、帰国後すぐに研究テーマを設定し、解決手段としてのビジネスモデルを提案します。活動は4~6人のグループ単位で行います。グループごとに解決したいテーマとビジネスプランを設定し、週1回の授業で研究を進めていきます。成果はプレゼンテーションソフトを使って、ポスターと配用のA4版プリント1枚にまとめて、6年生の1学期に発表します。

——— 日々の朝学習についても主体性を育成する工夫をされているとかがっています。

飯塚先生 「主体的に学ぶ」をテーマにしているので朝学習の時間で先生から生徒に課題を与えたりはしていません。朝学習を行うグループを作り、生徒が自分たちで計画を作り、問題集の選定や、先生への質問を行うようにしています。生徒が計画を共有したり、先生への質問をしやすいうように、Classiのグループ機能を活用しています。





- ▲ 朝学習のグループを作成し、学習内容の共有、先生への質問ができる仕組みを作っている
※14年度の実証研究の画面です。

大学卒業後に力を発揮する四ツ葉1期生たち

- 卒業生からは「四ツ葉での学びが、大学での授業に役に立っている」という声がよく聞かれます。他校出身の学生の中には、プレゼンテーションやレポートで苦労している人が多いが、自分は違和感なく取り組める」など、高校での学びで身についた力が、大学での学びに必要な力であったことに気付く卒業生が少なくありません。
- 進学した大学以外の一般向け講座やシンポジウムに積極的に参加する卒業生も目立ちます。様々な教育機会を活用して、主体的に学び続ける力の育成も本校の目標の1つです。大学卒業後もその気持ちを忘れず、自分自身を磨き続けてほしいです。

- 「四ツ葉の学び」を教師全員が確実に実践できるようにしたいと思っています。現状ではアクティブ・ラーニングや思考力・判断力を問う作問などに全ての教科・科目が取り組んでいるわけではありません。今後は、本校の教師なら誰でもが「四ツ葉の学び」を実践できるようにノウハウの共有を進め、教師個々の指導力向上を図って行きたいと思っています。

成果

今後に向けて